

6. ライブ+オンデマンド

ジェンダー論
金融論
男女共同参画社会論

ジェンダー論

担当教員	栗山 直子
対象	経済学部経済学科 2/3/4
受講者数	190人

授業の概要	ジェンダー（Gender）とは心理・文化・社会的な性のありかたを示す用語である。例えば、「男性はソトで仕事、女性はウチで家事・育児」という言葉で表される性別役割分業や「男らしさ」「女らしさ」といった性別特性にかかわる意識は社会文化的に構成されている。講義では性分化プロセスを経て、これらの性別役割分業意識や性別意識がどのように形成されていくか事例を挙げて考察した。ジェンダーの視点から働き方を考え、男女共同参画社会について必要な施策を考えていく。
ツール	✓ WebClass ✓ Webex Zoom ✓ Mediasite YouTube LINE その他()
ある1コマの授業プラン	○導入 前回の授業の総括、ミニテストの模範解答と解説、本日の授業テーマと目標 ○講義 授業内容についてのパワーポイントを用いた詳細な説明 ○まとめ 小テストまたはミニレポート、ワークの実施とその解説
工夫した点	対面授業であれば受講生の雰囲気を見ながら授業の進捗を進めていくこともできるがオンラインの場合は受講生の理解度をみるのが重要であると考えた。そのため、総合的評価よりも形成的評価を積極的に取り入れるようにした。例えば、学習活動の途中で学生の理解度を確認するために毎回小テストやミニレポートをおこなった。またグループディスカッションなどを予定していた回ではウェブクラスのチャットでグループをつくりグループごとにテーマについて一人3回は書き込みをするというノルマを設け、各グループを巡回してチェックするようにした。
今後の改善点	対面授業では視聴覚資料を利用して説明していた部分もオンラインでは視聴覚資料がうまく使用できず、口頭および静止画のみで説明することとなった。私自身がいまのうちにウェブックスにおいて技術面でも向上をはかっていきたい。

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ

金融論

担当教員	木下 智博
対象	経済学部経済学科 2/3/4
受講者数	241名

授業の概要	経済学部の主として公共経済コースおよび金融経済コースの2~3年生が、金融や通貨の仕組みを理解したうえで、金融政策や金融システム安定化政策の理論と実践について考察し説明できるようになることを目的とした授業である。
ツール	✓ WebClass Webex ✓ Zoom ✓ Mediasite YouTube LINE その他()
ある1コマの授業プラン	<p>○導入</p> <p>講義資料と動画を事前学習している学生に対しクイズを出題し回答を促す（WebClass チャット上）</p> <p>講義資料と動画を事前学習していない学生に対する講義資料閲覧と動画視聴の指示（同上）</p> <p>○授業開始約30分経過後（事前学習をしていなかった学生が動画視聴を終えるタイミング）</p> <p>講義資料と動画の内容に関する質問を促す（WebClass チャット上）</p> <p>事前学習をしていなかった学生に対しクイズへの回答を促す（同上）</p> <p>○授業開始約60分経過後</p> <p>WebClassのチャットに寄せられた質問に対して回WebClassのチャットに寄せられた質問に対して回答しながら履修者の考察を深める問い掛けを行う（同上）</p> <p>自動採点されたクイズの得点状況をチェックしながら、履修者が理解不足の点を探し補足説明（同上）</p> <p>○授業終了5分前</p> <p>授業内容のまとめ、次回の授業テーマの予告と事前学習の指示、講義要旨課題提出のリマインド</p>

工夫した点

- (1) 授業日の2日前までに各回の講義資料 PowerPoint を解説する映像・音声付きの動画を Zoom で制作し Mediasite 経由で WebClass に掲載しておいたうえで、それを視聴した履修者の理解度・学修到達度を確認するクイズ（加点対象）を授業時間中に出题し回答させることによって、事前学習を促した。クイズは、WebClass の自動採点機能を用いることで採点し、数日内には履修者が結果と正解を確認できるようにした。
- (2) 授業時間中は、WebClass のチャット（履修者全員用）を通じて、教員からの連絡・回答指示・補足説明を行ったほか、講義資料や動画などに関する学生からの質問（加点対象）に対して全て回答した。学生も、WebClass のチャットを通じて、事務連絡の相互確認は行っており、チャットが疑似的な教室の機能を果たしていた。
- (3) 動画視聴や講義資料閲覧を通じて取ったノートを整理した「講義要旨」の提出（加点対象）を、授業の約1週間後を期限として求めたことによって、事後学習を促した。
- (4) 上記の講義要旨は、提出期限後に遅滞なく採点する際、教員自身がまとめた授業のポイントを模範解答としてフィードバックすることで、WebClass 上で実施した中間試験（加点対象）の受験準備を促した。
- (5) 期末レポート（加点対象）は、その採点後に授業で全体講評と評価のフィードバックを行う際、得点不足の学生を中心に、記述内容の問題点を修正したうえでの再提出を「特別に許可」した。通常ならば再提出の催促や指示に応じない学生の多くが「特権を与えられた」と好意的に受け止め、レポートの修正と再提出に応じた。

今後の改善点

- (1) 30回の授業のうちほぼ毎回出題し採点するクイズへの加点の合計が、シラバス上に記載された成績評価の配点枠を超過してしまう問題が生じた。これは、各クイズが5小問から10小問で構成され、1授業回に2回のクイズを出題することもあった中で、WebClassの自動採点機能が1点未満を切り捨て0点と評価する仕様上、部分点評価を可能とするために各クイズに2点以上を配点せざるを得なかったからである。この問題は、105分授業に伴って授業1回ごとの評価の積み上げによる成績評価の仕組みが導入される2021年度において、クイズに対する配点枠全体を拡大することで緩和はされるものの、学生に自らの理解度を自覚させるためには部分点評価を行う必要がある以上、累計点が配点枠を超過し圧縮再計算をせざるを得ない事態を迎える問題は避けられない。履修者に予め、WebClassで開示される得点は「仮の得点」に過ぎず、圧縮再計算後の正式の得点を定期的にフィードバックするとでも通知しておけばよいのかもしれないが、事前学習をしっかりと行いクイズに正解した学生のやる気を殺ぐことになりかねず、悩ましい。
- (2) 学期初は「ライブ+オンデマンド」型の授業ながらWebClassチャットを活用した双方向のライブ型で運営することを想定し、こうした方針を「シラバス変更点」において開示しており、履修者の過半には理解・支持されたにもかかわらず、一部の学生が「授業時間に予定したバイトを辞めざるを得ないのは困る」「クイズが授業前に掲示されていないのは配慮が足りないのに学生のせいにするのか」「授業時間中に動画視聴、クイズ回答、チャット閲覧・投稿の3つを並行して行うのはシステム操作上も無理なのでやめてほしい」と執拗に苦情を言ってきた。こうした学生に対する配慮から、クイズ自体の出題・掲示を授業開始前に行うようになったところ、授業進行パターンに慣れた学生の多くが事前学習の段階で動画視聴とクイズ回答まで済ませてしまい、当該授業時間内にチャットでの質疑応答や意見交換に参加しなくなる問題が生じた。この問題は、チャットでの有益・有意義な質疑応答・意見交換への加点の中間ラップを開示し履修者のチャット参加意欲を維持することである程度は緩和できるものの、積極的な加点は(1)と同様、配点枠超過の問題につながりかねないので、成績評価の運営上の注意を要するところである。
- (3) 滑舌がよくないうえに、説明を丁寧にしようと思っていた結果として、動画教材が長くなってしまいう問題が起きた。この問題への対策としては、2021年度に対面式授業形態で実施する予定の金融論では、履修者に基礎知識を学ばせる予習用動画と、応用レベルの理論を学び考察させ意見交換させる対面式授業との間で機能分担することを考えている。

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ

(1)WebClass のチャットに、鋭い直観力や深い洞察力を見せる学生の質問が毎回必ず数問は投稿され、研究や教育手法開発の両面で有益な刺激を受けることが多いので、ぜひそれを楽しみにしてください。

(2)WebClass は、自動採点機能のみならず、記述式回答問題の採点・コメントの際も便利に使える機能がたくさんあるようです。それを駆使すれば、個々の学生が「先生は自分のことだけはよく見ている」と受け止める（錯覚？）ようなメッセージを伝えることも可能ですので、いろいろと工夫をしてみてくださいはいかがでしょうか。

男女共同参画社会論

担当教員	長町 理恵子
対象	経済学部経済学科 2/3/4
受講者数	約 120 名

授業の概要	男女共同参画、ダイバーシティの現状、課題、政策について学ぶ。
ツール	WebClass ✓ Webex Zoom Mediasite YouTube LINE その他()
ある コマの 授業プラン	<p>○導入 前回授業の振り返り、この 1 週間で教員が目にしたニュースを紹介。授業内課題を出している時は、学生コメントへのフィードバック。本日の授業テーマの説明。</p> <p>○講義 今日の授業内容について講義</p> <p>○まとめ 練習問題の課題（毎回ではない）、振り返り、次回の授業予告</p>
工夫した点	<p>授業では、Webex のチャット機能で、学生からの意見や質問を受け、教員からは音声で回答する形式で、チャットを活用している。「○○○○を聞いたことがありますか」「○○○○○について賛成ですか」などの教員からの質問や問いかけにも、全員ではないが多くの学生の回答が寄せられるので、学生の反応がよくわかり、それに対してコメントできる。学生には好評であり、オンライン授業・ライブ型の良さが生かされていると感じる。</p> <p>オンライン講演会も、Webex で実施した。講演途中も質問を受け付けることができる点がよかったと感じている。</p>
今後の改善点	講義形式の授業のため、教員から伝えることが多いが、105 分授業になるため、学生自身が調べたり、意見を出せるような時間を確保し、授業プランを充実させたい。

これからオンライン授業に取り組まれる先生方へのメッセージ